



でんえい会誌 第22号

名古屋工業大学電気系同窓会誌

<http://www.denei.jp/>



<名工大の精神とめざす大学像>

国立大学法人名古屋工業大学学長 鶴銅裕之

昨年4月に第12代学長に就任してから一年がたちました。この間、「日本再興戦略」の下で策定された「国立大学改革プラン」に沿って、全ての国立大学が第三期中期目標・計画期間に向けた様々な改革を加速しています。本学においては、「名工大版理工系人材育成戦略」を策定して学部と大学院の一体的な改革を進め、平成28年度には、産業界が求める人材育成に主眼をおいた取り組みとして、学科・専攻を再編成し、学部と大学院博士前期課程を6年一貫とする新教育課程を設置する予定です。

学長に就任するにあたっての将来ビジョンとして「伝統を礎に、新たなグローバルステージへ」を掲げました。昭和60年の博士課程設置に関わる大学改組のときに情報工学科から第6代学長に就任された太田正光先生は、創立80周年記念誌によせて次のように述べておられます。「大学が教職員にとっても学生にとっても誇りに充ちたものであるためには、栄光ある伝統の意識とともに若々しい刷新の気風が、常に醸し出されなければならない」。では、栄光ある伝統の意識とは何か？名高工電気科長、名工専校長を務められた名工大初代学長清水謹二先生は、それを次の言葉で表されておられます。「旧制大学を模倣してはならない。単にアメリカのドイツの大学の型を鵜呑みにしてはならぬ」「教育においても研究においても、従来の大学のごとく孤高におちいらず、産業界または実際実務技術者と緊密な提携をし、できるならば融合一体化して、活きた教育、活きた研究をすることである」。この伝統の意識、「独特の真によい大学としなければならぬ」という精神こそが、110年にわたって培われてきた工業系大学としての本学の伝統であり、素晴らしい実績の源です。培われてきた伝統と誇りを維持しながらも、それに甘んじることなく常に社会情勢に対応して刷新していく

ことが国立大学としての使命であると考えます。

この精神に基づき、産業技術と産業人材の育成機能を強化し、世界有数のものづくり拠点である中京地域産業界を維持・革新できる人材を輩出し、「エネルギー」と「ライフ」のイノベーション創出に貢献し、次世代への発展をはかることを目的とした「名工大版理工系人材育成戦略」を策定しました。その実現のため、わが国初となる「産学官教育連携会議」を設置し産業界の意見を集約して人材像を明確化、企業人材の積極的な登用、研究型インターンシップを活用した社会実装など、これまで以上に産業界との一体的な教育体制を敷いていきます。改革の柱となる6年一貫の「創造工学教育課程」では、分野毎に専門性を探求、深化していく従来型の教育課程とは一線を画し、専門性に軸足を置きながらも、工学の複数分野にまたがる幅広い知識を身につけ、イノベーション創成の源となる柔軟な発想力、俯瞰的な視点、多様な価値観を涵養していきます。なかでも「工学デザイン科目」は、発想のための方法論、デザイン理論、価値創造理論などの基礎理論からPBL型演習、フィールドワークなどの実践までを体系的に学ぶカリキュラムです。一方、もう一つの柱となる学部・大学院一体型の新学科・新専攻では、学問体系と社会ニーズに即して五つの学科・専攻に専門分野を集約化しました。なかでも、材料・物質分野を物理と化学を基軸として体系的に学ぶことができる二つの学科に集約するとともに、近年融合化が進む電気・電子と機械を一つの学科とし、両者の基礎力を共通的に有する電気系技術者、機械系技術者を育成するなど、他大学工学部の一歩先を行く工学教育体系となっています。

名古屋工業大学は伝統を継承しながらも未来をめざし、これからも進化してまいります。電影会の皆様にはより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

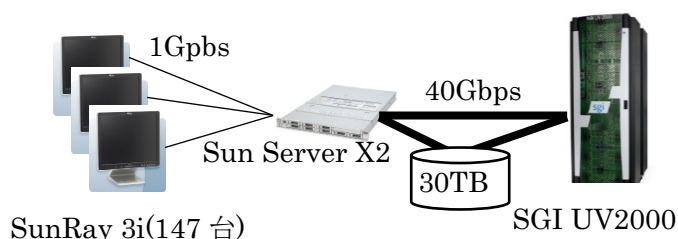
<平成 26 年度 情報工学科教育用電子計算機システム(CSE)の導入>

情報工学教育類 片山喜章

本学の情報工学科(1 学年約 180 名)に対する多様な情報工学演習・実験を可能とするために、教育用電子計算機システム(CSE)が導入されており、平成 26 年度が 4 年毎のシステム更新の年に当たりました。

H22 年から稼働していたシステムでは、身分証明カードを用いた個人認証機能及びカード挿抜によるセッションの中断再開が可能なシステムで、大変使い勝手の良いものでした。CSE 管理運用チームでは、その機能を中心に、学科に対する必要要件のアンケートを行うと同時に将来の教育の高度化に対応可能な機能を洗い出しました。また、管理運用を専門に行う者が不在であることから、管理・保守・運用にかかる手間や機器の故障の少なさを重視し、端末に HDD やファンが搭載されないことや、障害対応時のオペレーションの容易さを考慮したハードウェア構成とするなど、本学科の事情も配慮の上、仕様が検討されました。

その結果、主な構成として、フロントエンドはシンクライアント Sun Ray 3i と Sun Server X2 によるカードでの認証およびセッション管理によって利便性を実現し、またバックエンドに SGI UV2000(CPU:256core, メモリ:2TB) を擁することで高度な教育のみならず先端研究にも活用可能な計算能力を提供し、さらにその上に 30TB を超えるストレージサーバによって各ユーザに十分な領域を割り当て可能なシステムが導入されました(下図)。これら 2 台のサーバとストレージ間は、InfiniBand で 40Gbps



の通信速度で連結され、大容量データに対して迅速なアクセスを実現しています。他にも、

- カードによるオンデマンド印刷によるロケーションフリー印刷と無駄な印刷削減の実現
- ActiveDirectory による認証空間の統合
- 一部端末の Windows, UNIX のデュアルブートによる多様な実験環境の提供
- Secure Global Desktop による遠隔地からの安全なサーバへのアクセスと保守作業環境の実現
- Full-HD 魚眼カメラによる演習室の見守りの実現などが特徴としてあげられます。

しかし、今回の構成は比較的複雑な構成であり、それゆえのトラブルも発生しました。原因不明の通信ストール現象や、ログインセッション管理の不具合など、その原因がなかなかつかめず、ベンダーの本社がある米国とのやり取りが必要な事柄がしばしば発生し、解決に時間が必要となりました。安定運用までには、実験・演習を担当される先生方や学生諸君にご迷惑をおかけしてしまいました。

新しいシステムを導入すると未知の障害に遭遇する可能性があります。そして、最先端のシステムで教育や研究をサポートするためには、そのリスクを負う覚悟をもって導入・管理・運用を行わなければなりません。もちろん、(自分を含めて)利用者の皆さんに必要以上の不便を強いるのは避けなければなりません。障害が起きるとどうなるのか、それによってどのような不利益が生じるのかを身をもって体験すること、これも情報工学科学生への教育の一環です! …と考えるのは、できの悪い管理者の言い訳でしょうか。

また次期システムの検討を始めなければなりません。次はどんな面白い技術が導入されるか楽しみです。(もちろん、安定性が一番です。)

＜レスキューロボットチーム「NITRo」が 日本大会で準優勝＞

情報工学専攻 博士前期課程1年 古井地正義

名古屋工業大学森田・佐藤研究室レスキューロボットチーム「NITRo」が、2014年5月に開催されたロボカップジャパンオープン・レスキューロボット実機リーグ（ロボカップレスキュー）にて準優勝しました。その成果が認められ、NITRoは平成26年度名古屋工業大学学生表彰において学長表彰・特別功労部門を受賞しました。チームの代表として、活動の紹介と今年度の成果報告をさせていただきます。

日本では1995年の阪神淡路大震災をきっかけに、人間の代わりに災害現場で被害状況調査・要救助者探索を行うレスキューロボットの開発が様々な研究機関で行われています。人間機械協調系に焦点をおいたテーマを扱う私たち森田・佐藤研究室においても、佐藤徳孝助教のもと、レスキューロボットの操作支援に関する研究を行っています。主な研究内容は、VR・AR技術を用いたユーザインタフェースの提案や、システム制御によるレスキューロボットの半自律化であり、ロボットを使いこなすための技術開発を行っています。そこで得られた研究成果の実証や、学生の間での技術継承を目的として、研究室内でレスキューロボットチーム「NITRo」を結成し、ロボカップレスキューに出場しています。

ロボカップレスキューはレスキューロボットに関わる多くの研究者が集まり、競技を通じて技術を高めあい、成果を発表することを目的とした大会です。今大会には12チームが参加しました。競技内容は、自律ロボットと遠隔操作ロボットを用いて、フィールド内の要救助者マネキンを発見し、その情報を収集し、情報の正確さを競うものです。今年度の大会におけるNITRoの一つ目の開発目標は、要救助者マネキンをすべて発見できる自律ロボットの開発でした。ロボット

の信頼性向上のため、ハードウェアの単純化、プログラムのコンポーネント化といった改良を行ったうえで、模擬競技を繰り返しながら開発を進めました。我々の二つ目の開発目標は、他チームよりも小型な遠隔操作ロボットの開発でした。これには大型・複雑なロボットが多くを占めるロボカップレスキューにおいて、小型・単純なロボットを提案するという狙いがありました。

1ヵ月半の製作期間でNITRoは、シンプルで信頼性の高い自律ロボット「NITRo Access」と、参加チーム中最も小型な遠隔操作ロボット「NITRo Bit」を開発し、大会に参加しました。自律ロボットは、フィールド内をくまなく走行し、目標どおり、要救助者マネキンを全て発見することができました。さらに、被災者マネキンの位置を記した高精度な地図を作成し、高得点を獲得しました。遠隔操作ロボットは他チームが進入できない狭い環境で情報収集を行い、得点を重ねました。結果は、優勝した京都大学チームの得点119点にわずかに及ばず107点でしたが、チーム発足後初の準優勝という好成績を収めることができました。また、大会の結果をきっかけにNHK名古屋放送局様からのテレビ取材を受け、レスキューロボットに関する研究活動を一般の方々にも知っていただくことができました。この経験を生かし、今後とも真に役立つレスキューロボットシステムの開発に向け、チーム一丸となって邁進していきます。



チームメンバーとロボット（会場にて撮影）

<女子中高生への工学の勧め>

電気電子工学教育類 宮川 鈴衣奈

男女共同参画が叫ばれる昨今、特に理系分野において女性の活躍が期待されている。その背景には、少子化に伴う研究者人口の減少を回避するために、男性に限らず女性も特化した技術力をつけて国際社会で活躍することや、従来の男性中心な中では得られなかった視点を導入すること、などがある。政府からも女性活用戦略として“女性研究者比率〇〇%を実現する”ことが目標とされているが、女性の比率を増やせば全てが解決するというのではなく、重要なことは、男女という縛りをなくして科学分野の発展に努めることで豊かな社会を実現することだと考える。

教育に携わらせていただくようになって早3年が経とうとしているが、特に電気電子の分野において今はまだ数少ない女性研究者という立場ということもあり、女子中高生に向けた工学分野への進学を推進するイベント開催の機会を何度か頂いてきた。例えば、2014年8月には、本学内で株式会社資生堂との共催でサイエンスカフェを開催した(図1)。科学のおもしろさに触れてもらいたいという思いで企画し、私自身が工学部進学を決めたきっかけや学生生活のこと、今取り組んでいる研究の紹介をした後に、LED電球やモーターを用いた実験を行った。中高生を中心に約30名の方にご参加いただき、「工学部への進学や研究は難しいという先入観から敬遠していたが、科学についてもっと知りたいという気持ちになった」という感想も頂いた。その他にも、高校を訪問しての講演(図2)やオープンキャンパスでのイベントを開催し、工学部での学生生活の実際を紹介してきた。参加した学生に話を聞いていると、理系の学部や工学部は男性が進学するところというイメージから、進路を考える際の選択肢にも挙がっていなかったことを感じ、これらの機会が自分の興味と向き合うきっかけになれば、と思っている。

「女性が輝く社会のために」というモットーのもと、女性研究者が働きやすい環境にするため、出産・子育て・介護のようなライフイベントと両立させながら研



図1. 資生堂サイエンスカフェ in 名古屋工業大学



図2. 高校訪問での講演

究を進めることに協力的な制度が設けられており、従来に比べると働きやすい環境になったのは事実である。しかし、これらの制度は女性を対象にした制度が多いことが現状であり、その背景には、まだ子育てや家事は女性の役割だという認識がある。本当の意味での男女共同参画社会を実現するには、男女問わず家庭と仕事を両立できる環境や制度作りが必要だと感じる。また、各家庭での役割分担や形態の選択こそが多様であるべきと考える。

・・・と、大口を叩いてきた筆者はまだ家庭を持っておらず、ライフイベントとの両立に苦労した経験はないが、研究者としてどのようにありたいのか、キャリアパスを考えながら今後も研究に取り組んでいきたい。

＜就職状況について＞

電気電子工学教育類 就職担当 榊原久二男 (EJh3)

平成 27 年 3 月卒業予定の電気電子工学関連研究室の学生の就職担当を勤めました。対象学生数は、大学院生 105 名、一部学部生 142 名、二部学部生 7 名でした。一部学部生のうち、例年並みの 102 名 (72%) が進学しました。一方、数名ではありますが、研究生あるいは留年して研究室に残る学生が増加しました。他大学への大学院の合格者が減少したのと同時に、企業が早期に内定者を確保したい意向により、大学院入試後の採用枠が少なかったことが考えられます。

その一方で、全体の求人数は非常に多く、160 社以上の企業から面談を引き受け、本学卒業予定者採用の強い希望について説明を受けました。例年就職希望の多い自動車関連メーカ、大手総合電機メーカ、鉄道、電力は今年も同様に人気集中しましたが、それ以外にも、幅広い分野で電気電子分野技術者が必要とされています。例えば、金属、建築、衣料、食品など、その企業の製品そのものは電気とは関係ない企業でも、生産ラインの構築・保守管理や、工場やビルの電気設備の設計・保守管理には、電気分野の人材が求められます。特にこの数年は、団塊の世代が定年を迎え、補充の人材を確保したいこと、また、高度成長期に建設した工場や生産ラインの入れ替えの周期の時期にあたるため、各種設備関係の人材が望まれているという話もあり、様々な広い分野で、電気電子分野の学生の採用を望む声を聞きました。

近年の円安株高に伴い、景気が上向きになりつつあり、各社採用数増加の記事が新聞を賑わせております。私が本学学部卒業時の約 25 年前の状況に戻りつつあるように見えます。当時は大学から推薦を得たら内定がもらえたも同然でした。ところが現在は、就職希望学生数に対して有り余るほどの求人数がありながら、大学から推薦をもらって採用試験を受けた学生のうち、合格する人数は約 6 割とそれほど高くありません。推薦を受けたことによる学生の油断や、就職活動の開始直後で慣れてないなどの理由も考えられますが、採用の側も、一度、不景気を経験

し、慎重に合否を決める厳しい目を持つ習慣を身につけた後の近年では、推薦を受けても、試験の採用基準は厳しいままです。そのため、合格する人はたくさん内定をもらえる一方で、受からない人はいくつ受けてもなかなか内定がもらえない状況となっています。

自分の研究室で、彼に任せておけば大丈夫という信頼のおける学生であっても、おとなしいなど、面接受けしない学生もいます。一方で、強気な口調で、間違っただけでも言い切ってしまう学生は、面接受けが良く、あっさり内定を勝ち取ることが見られます。企業は組織で運営しており、様々な異なる特徴を持つ人材が、互いの弱点を補い合うことで、完成された組織を形成するものだと思います。口が達者で周りを引っ張っていきける社員も重要だと思いますが、おとなしくてもコツコツと着実に物事をやり遂げる社員も不可欠な人材だと思います。10 分ほどの面接でその学生の本質を見抜くのは難しいと思いますが、多様性のある人材の選び方は重要だと思います。近頃、マニュアル本が本屋に並び、就職の試験で学生が決まり切ったセリフを述べると聞きますが、合格者に多様性がないからマニュアルができてしまうのではないのでしょうか。一方で、試験を受ける側の学生は、マニュアルに頼ることなく、自分の得意技で勝負して欲しいと思います。来年はインターンシップを取り入れる会社が増えていると聞きます。優秀な人材を見抜く精度が高まると良いと思います。

来年の採用に向けて、就職活動のルールが変わり約 3 ヶ月遅れてスタートしました。これは、就職活動の期間を短くし、本来の学業への影響が少なくなるための措置と聞いております。しかし、従来の開始同時期に、OB 訪問などの名目で少しずつ始まっていることを考えると、むしろ就職活動の期間が長くなっていないかとも感じます。内定解禁が 8 月になりますので、公務員試験と大学院入試の時期と重なり、併願が増えることも予想されます。選択肢が増えるのは良いですが、両方が中途半端にならないよう注意が必要です。就職活動と、本来の学業との両立がうまくいくことを祈り、指導にあたりたいと思います。

＜就職状況について＞

情報工学教育類 就職担当 松尾啓志 (J58)

某就職紹介大手企業のWEBページを開くと、次のようなキャッチコピーが目に入ってくる。“あなたのエントリー状況は50社。内定獲得した先輩のエントリー数90社。内定獲得した先輩に追いつこう”。就職活動は、明らかに各プレイヤー間の持つ情報量が非対称な状況で行われる。つまり、海千山千の就職（＋転職）紹介企業、毎年求人活動を行っている企業人事と、人生で初めて就職活動を行う学生。従来から国立大学工学部では、就職担当が全面に立ち、このような非対称性環境下で、学生に不利にならないように防波堤としての役割を果たしてきました。

あなたのエントリー状況

内定獲得した先輩のエントリー数：90社

あなたのエントリー件数：50社



内定獲得した先輩に追いつけ！！

ここ10年企業側も（好むと好まないにかかわらず）ますます就職紹介業者への依存度を高め、情報工学科でも、いわゆる自由応募の比率が高まってきました。その結果学生は、12月から自分の手帳やスマホのスケジュールが埋まっていないと不安になるのか、多数の会社説明会に参加し、エントリーシートに時間と頭を費やします。その結果、沢山の自由応募から内々定を頂いた後、さらに4月に入ってから学校推薦で、本来の希望の会社に就職するという状況でした。このパターンはある意味かなり理想的なパターンであり、単に研究に費やす時間がすくなくなるという不利益（これはこれで大問題）だけが問題です。しかし、自由応募で”お祈りメール”を大量に頂いた結果、自信をなくし、就職活動途中で挫折してしまう不幸な学生を生んでしまう場合も少なくありません。

このような状況から来る危機感から、今年度は以下の2つの方針を建てました。（1）学生に対しては、学校推薦の有利な点を、機会がある毎に説明すると共に、特に自由応募を希望する学生には、就職紹介企業や求人企業側の考え方・戦略など、相手がある場合の行動戦略について説明しました。（2）学校推薦を希望して頂ける企業様担当者との面談において、選考は学生と企業の間でWIN-WINの関係を保つ必要があり、所謂自由応募と同じと考えないで欲しいと、力説しました。つまり学校推薦においては、選考を早くすると同時に、コミュニケーション能力を絶対視・重要視するのではなく、情報工学を専攻した学生としての能力（学業成績を含む）を重視しての選考をお願いしました。

その結果、大学院においては、昨年度の学校推薦による最終就職先決定比率が33%であったのに対して、今年度は50%、学部は8%から26%にまで上昇させることができました。情報工学科の就職先として、学校推薦を全く行わない企業（IT企業など）が多い中、学校推薦の比率が半数にまで上昇できたのは、多少の成果があったと考えております。

平成27年度の就職スケジュールは、劇的に変わり、3月からの会社説明会解禁、8月からの選考となります。このスケジュールは、大学院修了での就職がかなりの割合を占める本学に取っては、本来大学院での研究が加速する時期に5ヶ月以上研究がスローダウンする状況となり、研究環境の劣化が危惧されます。しかし、一端決まってしまった以上、今後は就職担当の舵取りが、今年度よりもさらに重要になってくると考えています。

OB各位がリクルーターとして来学して頂く場面も増えております。本学の学生は平均的に、企業が重視しているコミュニケーション能力（場の空気を読んで、話を合わせる能力 かな？）は必ずしも得意ではありません。しかし工学部卒業学生として重要な、基礎技術力、問題解決能力は、できる限り身につけて卒業させるよう全教員が努力しています。

今後ともOB各位は、本学学生の気質を理解しつつ、就職活動および就職後晴れて入社した後のサポートを頂ければ幸いです。

平成 26 年度事業報告

1. 会合

- 電影会総会 H.26.5.23 名工大 23 号館
- 第 1 回役員会 H.26.10.15 名工大大学会館
- 学内幹事会 H.26.12.8 名工大大学会館
- 第 2 回役員会 H.27.3.4 名工大大学会館
- 幹事会 H.27.3.18 名古屋工業会館

2. 事業

- 学生向け講演会
 - (1) H.26.10.31
株式会社ディック電子 取締役執行役員
大野 日出夫 氏 (Es48)
「成長への挑戦」
 - (2) H.26.11.7
一般社団法人日本電機工業会 常務理事
本松 修 氏
「業界研究 ～電機産業について～」
 - (3) H.26.11.12
豊田中央研究所 パワーデバイス研究室
上杉 勉 氏 (E55)
「くるまとパワーデバイス
～私たちがくるまの未来を支えています～」
- 新入生向け電影会案内 H26.4.4
- 卒業祝賀会 H27.3.23
- 電影会会誌発行(第 21 号)H.26.4
- 大学行事補助 7 件
- 電影会賞贈呈 H27.3.23

※卒業生と学生との懇談会は H.27.4.24 に開催予定

平成 27 年度事業計画 (案)

1. 会合

- 電影会総会 ○役員会
- 幹事会 ○学内幹事会

2. 事業

- 新入生向け電影会案内 ○学生向け講演会
- 電影会会誌発行 ○卒業祝賀会
- 電影会ホームページの充実 ○電影会賞
- 大学行事への補助
- 卒業生と学生との懇談会

平成 27 年度予算 (案)

科目	収入	科目	支出
繰越金	5,127,637	通信費	640,000
入会金	1,600,000	印刷費	685,000
工業会より	70,000	事務費	20,000
利息	300	会合費	255,000
雑収入	200,000	学生行事補助	700,000
寄付金	1,200,000	大学行事補助	50,000
		総会補助	50,000
		支部活動費	150,000
		名簿管理・IT・ネット経費	75,000
		雑費	10,000
		植樹費用	0
		人件費	300,000
		繰越金	5,262,937
合計	8,197,937	合計	8,197,937

平成 26 年度決算

科目	収入	科目	支出
繰越金	4,831,602	通信費	633,625
入会金	1,620,000	印刷費	684,538
工業会より	0	事務費	15,540
利息	482	会合費	242,539
雑収入	120,000	学生行事補助	512,469
寄付金	1,335,490	大学行事補助	35,000
		総会補助	31,680
		支部活動費	150,000
		インターネット経費	74,546
		雑費	0
		植樹費用	100,000
		人件費	300,000
		繰越金	5,127,637
合計	7,907,574	合計	7,907,574

平成 27 年度役員(案)

- 名誉会長 井上丈太郎 (E13)
大飼英吉 (E28)
神谷昌宏 (E36)
中村光一 (E41)
北村正 (Es48)
- 会長 川村信之 (E53)
- 副会長 木下清彦 (E36) 土居秀行 (E37)
安藤幹人 (E57) 松尾啓志 (J58)
- 理事 岩塚真之 (E56) 山中清 (J 52)
曾我哲夫 (E57) 三宅正人 (E60)
- 監事 市原正樹 (E48)
- 庶務理事 廣瀬光利 (E50) 小坂卓 (EJh6)
- 会計理事 酒井公孝 (J54) 南角吉彦 (Ih11)
- 編集理事 関健太 (EJh12) 伊藤宏隆 (EJh6)
- 庶務補佐 伊藤孝行 (Ih7)
- 会計補佐 立岩佑一郎 (Ih14)

学位取得者一覧

情報工学専攻

平成 27 年 3 月 課程修了者 (授与日:平成 27 年 3 月 23 日)

氏名	論文題目	主査教員名
YU QI YUE	デジタルホログラフィによる三次元形状の精密計測	梅崎 太造
篠原 悠作	荷重制御装置に対する 2 段アクチュエータ制御系の設計	岩崎 誠
戸本 裕太郎	人の理解を促進する感性情報の可視化に関する研究	中村 剛士
山田 康太	輝度温度分布推定のための広帯域マイクロ波放射計の開発に関する研究	榊原 久二男
RAFIK HADFI	Utility Hyper-graphs for Complex Decision Making	伊藤 孝行
天雨 徹	IEC 61850 を適用した電力ネットワークの監視制御システム	竹下 隆晴
飯田 導平	FM 帯電磁ノイズ低減を目的とした車載用プリント配線基板のグラウンドパターン設計に関する研究	王 建青
武田 明	ヒト血液の複素比誘電率を用いた透析効率の評価に関する研究	王 建青
小林 丈之	撮像制御に基づく動きぼけと奥行きぼけの同時復元	佐藤 淳

平成 27 年 3 月 特例 課程修了者 (授与日:平成 27 年 3 月 31 日)

氏名	論文題目	主査教員名
VEERASAMY BALAJI	Bidirectional AC/DC Converter with Improved Power Factor and Reduced DC Ripple for Battery and Photovoltaic Applications	竹下 隆晴

創成シミュレーション工学専攻

平成 26 年 12 月 課程修了者 (授与日:平成 26 年 12 月 17 日)

氏名	論文題目	主査教員名
中村 和寛	STATISTICAL APPROACH TO SPEECH AND SINGING VOICE SYNTHESIS	李 晃伸
玉森 聡	STATISTICAL MODELS INCLUDING NORMALIZATION PROCESSES FOR IMAGE RECOGNITION	李 晃伸

入試・就職状況

昨年度の入試状況と就職状況は以下の通りです。

平成 27 年度入学者選抜状況

電気電子工学科 (一部)

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	10	84	45
志願者数	31	218	286
受験者数	31	206	171
合格者数	11	89	50

情報工学科 (一部)

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	20	94	50
志願者数	47	307	351
受験者数	47	276	192
合格者数	22	96	57

第一部私費外国人留学生特別選抜

	電気電子工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	16	21
受験者数	14	19
合格者数	6	7

編入学・転入学 (一部:3年)

	電気電子工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	42	20
受験者数	38	18
合格者数	11	3

電気情報工学科 (二部:一般選抜前期日程)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
5	50	48	7

大学院・情報工学専攻(博士前期課程)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	42	78	若干名
志願者数	47	135	6
受験者数	46	128	6
合格者数	46	92	2

大学院・情報工学専攻(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
5	6	6	6

大学院・情報工学専攻(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	6	6	6

※機能工学専攻・創成シミュレーション工学専攻・未来材料創成工学専攻・産業戦略工学専攻の選抜状況は省略

平成26年度卒業生就職状況

	電気電子工学科			情報工学科		
	大学院※	一部	二部	大学院※	一部	二部
卒業生	105	142	7	109	165	1
進学者	5	102	1	3	110	0
研究生	0	3	0	0	5	0
一般企業	97	27	2	100	41	1
公務員	0	1	1	0	2	0
教員	0	0	0	0	0	0
帰国(留学生)	1	1	0	4	1	0
休学他	2	7	2	6	7	1
未定者	0	1	1	2	6	0

※機能工学専攻・創成シミュレーション工学専攻・未来材料創成工学専攻・産業戦略工学専攻を含む

電影会賞

この賞は、電影会準会員の向学心向上と優秀な学生の育成を目的とし、卓越した成績で卒業し、今後の科学技術の発展に貢献すると思われる有望な学生を表彰することを目的としています。平成26年度の受賞者は以下の方です。

氏名, 所属
山下 悟央, 第一部電気電子工学科
浦山 雄也, 第一部電気電子工学科
星野 修平, 第一部電気電子工学科
野呂 六海, 第一部電気電子工学科
北川 翔三, 第一部電気電子工学科
中村 圭吾, 第一部電気電子工学科
中屋 稜, 第一部電気電子工学科
大道 大, 第二部電気情報工学科

氏名, 所属
浅井 千明, 第一部情報工学科
浅野 志帆, 第一部情報工学科
渥美 心悟, 第一部情報工学科
河村 慎二, 第一部情報工学科
柴垣 篤志, 第一部情報工学科
古川 敬太, 第一部情報工学科
松尾 涼平, 第一部情報工学科
森 顕之, 第一部情報工学科

学生の表彰

紙面の都合上、受賞内容の詳細は省略させていただきます。

賞の名称, 氏名, 所属, 指導教員氏名
映像メディア処理シンポジウム(IMPS)学生論文賞 (2014.12), 藤田秀, 創成シミュレーション工学専攻, 石橋豊教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金学長表彰 (2015.2), Mya Sithu, 創成シミュレーション工学専攻, 石橋豊教授
IEEE名古屋支部国際会議研究発表賞 (2015.3), 三宮大弥, 創成シミュレーション工学専攻, 石橋豊教授
ITSシンポジウム2014最優秀論文賞 (2014.12), 徳田渉, 情報工学専攻, 伊藤孝行教授

賞の名称, 氏名, 所属, 指導教員氏名
合同エージェントワークショップ&シンポジウム 2014(JAWS2014)発表賞 (2014.10), 伊美裕麻, 産業戦略工学専攻, 伊藤孝行教授
IEEE 名古屋支部学生奨励賞 (2015.1), 伊美裕麻, 産業戦略工学専攻, 伊藤孝行教授
平成 25 年度電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (2014.6), 野村洋介, 情報工学専攻, 伊藤嘉浩准教授
マルチメディア、分散、協調とモバイルシンポジウム(DICOMO2014)優秀プレゼンテーション賞 (2014.7), 久米雄介, 情報工学専攻, 打矢隆弘准教授
第 18 回東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会総一位 (2014.8), 神戸美智子, 産業戦略工学専攻, 梅崎太造教授
IEEE 名古屋支部学生奨励賞 (2014.9), 井上航, 産業戦略工学専攻, 梅崎太造教授
日本音響学会東海支部優秀発表賞 (2014.12), 神戸美智子, 産業戦略工学専攻, 梅崎太造教授
平成 25 年度電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (2014.6), 伊藤孝弘, 情報工学専攻, 王建青教授
電子情報通信学会環境電磁工学研究会若手研究者発表会優秀賞 (2014.7), 加藤巧, 情報工学専攻, 王建青教授
電子情報通信学会ヘルスケア・医療情報通信技術研究会ポスターセッション若手奨励賞 (2014.7), 清水悠斗, 情報工学専攻, 王建青教授
The 9th International Symposium on Medical Information and Communication Technology, The Best Student Paper Award (2015.3), 伊藤孝弘, 情報工学専攻, 王建青教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金学長表彰 (2015.2), 稲葉悠馬, 情報工学専攻, 岡本英二准教授
平成 25 年度電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (2014.6), 稲葉悠馬, 情報工学専攻, 岡本英二准教授
The Sixth International Conference on Ubiquitous and Future Networks (ICUFN2014) Excellent Paper Award (2014.7), 堀場慎人, 情報工学専攻, 岡本英二准教授
The Sixth International Conference on Ubiquitous and Future Networks (ICUFN2014) Excellent Paper Award (2014.7), 中島啓太, 情報工学専攻, 岡本英二准教授
平成 25 年度電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (2014.6), 佐久間拓人, 情報工学専攻, 加藤昇平准教授
第 13 回情報科学技術フォーラム (FIT2014) FIT 奨励賞 (2014.9), 森田信吾, 情報工学専攻, 加藤昇平准教授
The Twentieth International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB2015 20th) Young Author Award (2015.1), 森田信吾, 情報工学専攻, 加藤昇平准教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金副学長表彰 (2015.2), 佐久間拓人, 情報工学専攻, 加藤昇平准教授
平成 26 年電子デバイス研究会論文発表奨励賞 (2014.12), 中根浩貴, 機能工学専攻, 加藤正史准教授
第 130 回システムソフトウェアとオペレーティングシステム研究会最優秀学生発表賞 (2014.11), 石川幸希, 情報工学専攻, 齋藤彰一准教授
電気学会優秀論文発表賞 B 賞 (2015.1), 神谷有城, 情報工学専攻博士前期課程, 関健太准教授
マルチメディア、分散、協調とモバイルシンポジウム(DICOMO2014)ヤングリサーチャー賞 (2014.7), 村瀬正樹, 情報工学専攻, 高橋直久教授
第 7 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2015)学生プレゼンテーション賞 (2015.3), 飯田真也, 情報工学専攻, 高橋直久教授
2014 年度教育システム情報学会(JSISE)学生研究発表会優秀発表賞 (2015.3), 渥美心悟, 情報工学科, 高橋直久教授
名古屋工業会賞 (2015.3), 山川智之, 電気電子工学科, 竹下隆晴教授
計測自動制御学会中部支部 支部賞学業優秀賞 (2015.3), 佐藤貴裕, 電気電子工学科, 竹下隆晴教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金副学長表彰 (2015.2), 渡辺章太, 情報工学専攻, 竹下隆晴教授
電気学会優秀論文発表賞 A (2014.9), 磯崎順平, 情報工学専攻, 竹下隆晴教授
電気学会優秀論文発表賞 A (2014.8), 鈴木一馬, 情報工学専攻, 竹下隆晴教授
情報処理学会東海支部学生論文奨励賞 (2014.5), 橋本高志良, 創成シミュレーション工学専攻, 津邑公暁准教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金副学長表彰 (2015.2), 柴田裕貴, 創成シミュレーション工学専攻, 津邑公暁准教授
第 9 回日本音響学会学生優秀発表賞 (2014.9), 中村和寛, 創成シミュレーション工学専攻, 南角吉彦准教授
2014 年度日本音響学会東海支部優秀発表賞 (2014.12), 有竹貴士, 創成シミュレーション工学専攻, 南角吉彦准教授
第 10 回日本音響学会学生優秀発表賞 (2015.3), 神谷翔大, 創成シミュレーション工学専攻, 南角吉彦准教授
電子情報通信学会エレクトロニクスサイエティ学生奨励賞 (2015.3), 杉山侑紀也, 情報工学専攻, 平田晃正准教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金副学長表彰 (2015.2), 谷藤拓麻, 情報工学専攻, 松井俊浩准教授
2014 年第 32 回電気設備学会全国大会発表奨励賞 (2014.12), 多久和鉄也, 情報工学専攻, 安井晋示准教授

電影会運営資金寄付者

以下の方々より寄付をいただきました。ご高配に厚く御礼申し上げます。なお、学科の略語の記載を省略し、卒業年のみ記載させて頂きましたので予めご了承ください。

- | | | | |
|------|--|------|--------------------------|
| 昭 14 | 菊地秀樹 | 昭 53 | 稲永俊二 川村信之 濱田隆男 |
| 昭 16 | 阿部勝美 杉山貞夫 辻良男 | 昭 54 | 杉浦伸明 吉田誠治 大前義信 |
| 昭 17 | 猪島克己 | 昭 55 | 岩崎政彦 |
| 昭 18 | 祖父江晴秋 本多直人 本間吉夫 | 昭 56 | 石橋豊 萩原秀和 岩塚真之 木澤充泰 西山寿美 |
| 昭 19 | 今井田正敏 大場勝 | | 山口初一 浅羽哲朗 |
| 昭 20 | 伊藤博英 垣見秀心 | 昭 57 | 丸山敏彦 横山清子 安藤幹人 谷本弘二 菊間信良 |
| 昭 21 | 松井康太郎 | 昭 58 | 星野昭広 |
| 昭 22 | 安藤政之 伊藤季彦 遠藤正敏 大友博幸 川口史郎
玉田博二 中村正雪 西川清司 船橋信孝 三木忠夫
村上庄之介 | 昭 59 | 酒井泰誠 堀井良和 |
| 昭 23 | 田中三男 中井二夫 中村順 福住靖治 牧野和正
松下昭 宮内孟 村川邦夫 分部力 | 昭 61 | 熊崎昭 高石一慶 |
| 昭 24 | 愛川文雄 井上高明 田坂弘次郎 | 昭 62 | 羽賀政雄 森田良文 |
| 昭 25 | 青山春彦 安良城勝也 泉館昭則 荻野孝 加藤裕
後藤正 白井光雄 中村正夫 林文雄 | 昭 63 | 鎌田和弘 |
| 昭 26 | 伊藤健男 岡村実夫 沖辻寛 奥村土郎 加藤隆
加藤正昭 兼子共明 小林繁利 阪口貢 波多野寅英
原行一 吉野毅 | 平元 | 玉越和彦 林宏明 八木健 |
| 昭 28 | 犬飼英吉 杉岡太郎 西澤明 | 平 3 | 谷口一哉 |
| 昭 29 | 伊藤英輔 太田耕二 酒井兼夫 志賀弘 都筑登
七滝健夫 渡邊康男 | 平 4 | 白田尚志 中野信明 野村尚史 |
| 昭 30 | 内田忠良 加藤正也 北岡武 北野祐一 武田節子 | 平 5 | 加代和彦 |
| 昭 31 | 安藤文夫 木林宗治 大嶋光朗 | 平 6 | 小坂卓 |
| 昭 32 | 今村哲 植田俊男 岡野修 金田桂太郎 久保仁
中塚茂 水谷安郎 森千鶴夫 | 平 7 | 大園忠親 松井俊浩 |
| 昭 33 | 木村欽哉 寺社下政美 瀬口令夫 高橋等 寺林康治
中谷恭朗 藤田正浩 松山幸夫 | 平 10 | 布目敏郎 |
| 昭 34 | 芦崎重也 伊藤智彦 草野洋 俵康雄 山田要
行本貞夫 | 平 11 | 酒向慎司 |
| 昭 35 | 梅野正義 岡田至 岡田昌孝 金子勝藏 後藤秋生
藪田耕一 千種良夫 中西和義 | 平 12 | 森下さと子 竹尾淳 岸直希 |
| 昭 36 | 安藤元吉 太田雅裕 神谷昌宏 木下清彦 黒田和助
堤格士 西村秀夫 藤原康宏 細野猪三雄 馬路才智
増田勝一 増田尚義 森克彦 | 平 15 | 川原淳平 |
| 昭 37 | 伊藤信大 久保村徳太郎 田中一義 土居秀行
野田昭 半田徹 堀崎浩一 水谷欽弥 | 平 18 | 櫻井潤 西村弘志 |
| 昭 38 | 是木修一 中谷光男 八代弘 | 平 20 | 波多野学 |
| 昭 39 | 梅津寛 岡田守弘 加藤勝英 近藤芳孝 下前哲夫
高井律男 竹田之紀 田村英也 幅敏明 水澤健一
安田匡一郎 矢田公一 山本俊伸 吉田嶽彦 | 平 21 | 本種和弘 |
| 昭 40 | 大隅東也 升田裕之 | 平 22 | 浅田徳弘 |
| 昭 41 | 宇野啓一 大島俊蔵 大場直之 神本勝巳 中村光一
前越久 八島武久 額重篤 | 平 23 | 鹿田景之 水谷末一 |
| 昭 42 | 伊藤洋太郎 小島一男 中山静夫 水野重雄 吉村洋典
阿江勉 青木猛 櫃本紘一 | | |
| 昭 43 | 沢野勝 重見健一 鈴木清明 牧野正俊 | | |
| 昭 44 | 菅野宗二 木原清 佐藤恒夫 柴田俊夫 岸野文郎 | | |
| 昭 45 | 加藤友康 須藤章夫 中島豊四郎 野口義廣 松崎敦志 | | |
| 昭 47 | 加藤元三郎 川越英二 田島耕一 前田克民 | | |
| 昭 48 | 市原正樹 川端康己 蓮田史則 平尾篤 三木敏裕
米山高志 菊池芳男 北村正 中島正敏 | | |
| 昭 49 | 赤木泰文 前田光雄 水野正路 朝倉吉隆 桑原成光 | | |
| 昭 50 | 荻原義也 木田弘幸 廣瀬光利 眞鍋和人 浅井良一
浜岡重男 | | |
| 昭 51 | 東功 恩地秀男 山田秀夫 山平拓也 太田仁啓
吉村元 | | |
| 昭 52 | 内海和彦 山中清 久保田徹 宮脇誠 森壽保 | | |

学 科 近 況

◎ 学科役職(新年度の電影会関連教職員のみ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 平成 27 年度電気電子工学教育類 | |
| 教育類長 | 岩崎 誠 教授 |
| 副教育類長 | 市村 正也 教授 |
| | 榎原 久二男 教授 |
| 平成 27 年度情報工学教育類 | |
| 教育類長 | 松尾 啓志 教授 |
| 副教育類長 | 新谷 虎松 教授 |
| | 徳田 恵一 教授 |
| 平成 27 年度情報工学専攻 | |
| 専攻長 | 榎原 久二男 教授 |
| 副専攻長 | 梅崎 太造 教授 |
| | 竹下 隆晴 教授 |
| 平成 27 年度就職担当 | |
| 電気電子工学教育類 | 大原 繁男 教授 |
| 情報工学教育類 | 和田山 正 教授 |
| | 竹内 一郎 教授 |
| ◎ 平成 26 年度退職教職員 | |
| 電気電子工学教育類 | 前田 雅輝 教授
(定年退職) |

総会通知

平成 27 年度電影会総会並びに懇親会のお知らせ

日時:平成 27 年 5 月 22 日(金)
17 時 00 分～20 時 30 分

会場: 名古屋工業大学
<総会・講演会> 19 号館 1 階 会議室
<懇親会> 大学会館1階 生協大食堂
<http://www.nitech.ac.jp/access/index.html>

会次第:

16 時 30 分 総会受付開始 (19 号館 1 階 会議室)
17 時 00 分 総会
17 時 30 分 講演会 (19 号館 1 階 会議室)
演題:「名工大は何を目指すのか?
～H28 年度からの教育と組織はこう改革される」
講師: 犬塚 信博氏
(名古屋工業大学副学長, J62)
18 時 30 分 懇親会 (大学会館1階 生協大食堂)
懇親会会費: 5,000 円 (一般)
2,000 円 (学生)
(当日会場受付で頂きます)

総会と講演会との合間に、台風で倒木した電影会記念樹に代えて 4 号館竣工に合わせて準備して参りました新たな電影会記念樹のお披露目も行います。ご多用とは存じますが、多数お誘い合わせの上是非ご出席下さいませようご案内申し上げます。

なお、昭和 40 年 3 月の御卒業で総会に御出席の各位には、ご卒業満 50 年をお祝いいたしましてご招待させていただきます(会費無料)とともに、ささやかではありますが、記念の品をお贈りいたします。

今年も学科長、就職担当教授をはじめ多数の教員、博士後期課程(ドクターコース)の留学生を含む在学生も出席予定です。皆様お誘い合わせの上のご出席をお待ち致しております。

関東支部からのご案内

電影会関東支部では新たな取り組みとして、会員の方々の自由な情報交換の場であるウェブサイトを上上げる準備をしています。

現在はメールアドレス登録が可能です。メールアドレス等の登録はこちらのサイトにアクセスしてください(<http://goo.gl/fV1QFH>)。また二次元バーコードを利用したアクセスも可能です。

講演会や懇親会の案内、母校の情報などを会員の方々にメール配信致します。関東地区在住の会員の方々の登録をお願い致します。



名古屋工業会総会のご案内

名古屋工業会平成 27 年度定期総会及び会員総会が、平成 27 年 5 月 23 日(土)に開催されます。皆様奮ってご参加のほどよろしくお願いいたします。

電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

尚、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。

一口	: 2000 円
郵便振込先:	00860-9-19618 電影会

名古屋工業大学基金寄付募集のお願い

現在、名古屋工業大学は皆様からの寄附を募集しております。詳しくは名古屋工業大学基金のウェブサイト(<http://www.nitech.ac.jp/kikin/>)をご覧ください。

投稿記事の募集

でんえい会誌の記事を募集いたしますので、会員の皆様からの積極的なご投稿を電影会までお願いいたします。1 ページ約 1600 字です。

編集委員 松尾 啓志(J58) 関 健太(EJh12)
小坂 卓(EJh6) 伊藤 宏隆(EJh6)
南角 吉彦(Ih11)

発行 名古屋工業大学内電影会

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
Tel: (052) 735-5459 (ながれ領域事務室)
Tel: (052) 735-5420 (事務:小坂庶務理事)
Fax: (052) 735-5420 (事務:小坂庶務理事)
E-mail: office@denei.jp
URL: <http://www.denei.jp/>